

## 平成23年度 第2回CCC政治学グループ運営委員会 議事概要

- I. 日時 : 平成23年11月14日(金) 18:00～21:00  
II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室  
III. 出席者 : 萩原委員、川島委員、名取委員 (skype) 吉岡アドバイザー  
(事務局)井端事務局長 森下主幹 松本職員

### IV. 議事概要

1. 現在検討中の政治学における学士力を実現するための教育改善モデルについて、まとめ方の方針を以下の通り確認した。
- ① 授業改善モデルは5年先を想定し、今まで実現できなかった授業を理想として掲げる。
  - ② 到達度は知識が定着し、知識を活用できるまでのレベルとし、評価まで検討する。
  - ③ 中学校・高校の学習指導要領では、総合的な学習として、探求的学習、他者と協同し課題を解決する問題解決型学習、体験活動を重視した新しい学びを掲げており、平成24年度から授業を実施することになっている。
  - ④ ③の学習指導要領の内容を踏まえ、大学教育では、自己や社会と関連付けしながら学士力を身に付け、社会で通用する力を身に付けさせることが重要である。
  - ⑤ 授業モデルの「授業のねらい」は、なぜこの授業を提案するのか、問題の所在を数行で示し、以降の項目では実現のための解決方法を提案する。
  - ⑥ 「授業シナリオ」はシラバスでなく、質保証に向けた卒業までの枠組みを提示する。
  - ⑦ モデルのまとめ以降は、年度末に向けて授業の評価、教員の教育力についても検討する。

### 2. 教育改善モデル(案)について

#### <到達目標1、2について>

- ・政治に触れたことのない(新聞などを読まない)学生に関心を持たせることを目指しており、政治を身近に感じさせることが必要。
- ・リアルタイムメディアを使うことの重要性。ツイッターやフェイスブックなど具体的なツールの提示は5年後に普及しており、目新しさがないかもしれないが、概念として提示すれば通用する。

#### <到達目標3、4、5>

- ・政治学の概念、議論のアプローチとなる。

モデル案は動機付けなど(到達目標1、2について)のモデル1つ、概念・議論など専門的に踏み込んだ(到達目標3、4、5について)モデル2つの計3つであったが、新しい授業提案として、各モデル間の差別化が難しいため、本委員会では1つのモデルにまとめることにした。また、モデルの各項目について以下のように検討した。

・「到達度として学生が身につける能力」

- ① 政治的諸概念について理解し、その概念を使って現実の政治現象を説明できる
- ② 現実の政治現象を実証的資料、フィールド調査によるデータにもとづいて議論できる。
- ③ 社会の一員としての問題発見力、表現力、解決力を身に付けている。

・「授業のねらい」

社会の一員としての責任感や政治が自らの問題であることが自覚されておらず、人間社会の現実の事象を体系的に関連付けることができていない。政治が価値観を異にする他者との共生を実現する営みであることが理解できていない。

ここで提案する授業は、自らの問題として政治に主体的に関わっていく市民を育成していくとともに政治学を体系的、かつ複眼的に習得していくものである。

・「授業の仕組み」

ここでは卒業するまでの学習期間を通じた授業改善モデルであり、ある特定年次をイメージしたものではない。各々の授業は受動的段階(知識の正確な習得)、能動的段階(習得した知識を自分流にアレンジして応用し、レポートを作成)、フィードバック(教員および他の学生と相互のレポートを吟味し合い、誤りや不足点を修正しつつ新たな問題発見につなげて行く)段階の三つのステップを踏む。

時間の都合上、「授業の仕組み」まで検討し、以降の項目については次回委員会で継続して検討することにした。

## V. 次回の開催日程

日時：11月21日(水)19:00～または11月26日(月)14:00～

(メーカーリングリストにて調整)

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室